

美術

美術科は、表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、美術を愛好する心情と感性を育て、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを目標としている。そのために、発達段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、育成すべき資質・能力の相互の関連や学習内容との関係を明確にすること、また、創造性を育む造形体験の充実を図りながら、生活や社会と豊かに関わる態度を育み、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを実感させるような指導を重視することが大切である。

【中学校】

1 美術科の指導の重点

(1) 感性を豊かに育てよう

感性とは、「さまざまな対象・事象からよさや美しさ等の価値や心情等を感じ取る力」であり、知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなす重要なものであると捉えて実践を行う。

美術科は、目に見えるものや目に見えない想像や心、感情、イメージ等を、目に見え、触れられるものに表現し、実体化するための基礎的能力及び創造的能力を育てる教科である。この特質は、「美しいものや自然に感動する心」の育成に強く関わることから、心の働きである感性の育成をいっそう重視する必要がある。また、感じ取って自分を更新していくこと、新しい意味や価値を創造していくこと等も含めて感性の働きであると捉え、表現や鑑賞の活動を通して、視覚、触覚等を働かせて心で見える体験を積み重ねることが大切になる。

(2) 表現能力を伸ばそう

生徒の表現したい欲求を大切にしながら、形や色、材料等を基に、より美しく創造的に、心豊かに表すための資質や能力を育成する。

「発想や構想の能力」と「創造的な技能」を育成することを重視し、それぞれを題材の中で関連させながら、指導することが大切である。また、3年間を見通して、A表現(1)-(3)と(2)-(3)、「描く活動」と「つくる活動」のバランスを考慮し、計画的に指導することも大切である。

【A表現(1)発想や構想の能力】

感じ取ったことや考えたこと等を基に、絵や彫刻等に表現する活動を通して、発想や構想に関する指導をする。

- ・ 感じ取ったことや考えたこと等を基に主題を生み出すこと
- ・ 表したい主題を、形や色、材料等を構成してどのようにして表現するのか構想を練ること

【A表現(2)発想や構想の能力】

伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸等に表現する活動を通して、発想や構想に関する指導をする。

- ・ 身近な環境を含め、さまざまなものを対象とし、造形的に美しく構成したり、装飾したりするための発想や構想
- ・ 伝えたいことを、美しく、分かりやすく効果的に表現するための発想や構想
- ・ 用途や機能等を考えた発想や構想

【A表現(3)創造的な技能】

発想や構想したこと等を基に表現する活動を通して、技能に関する指導をする。

- ・ 意図に応じて材料や用具を生かし、創意工夫して表現する技能
- ・ 材料や用具の特性等を踏まえ、制作の順序等を考えながら、見通しをもって表現する技能

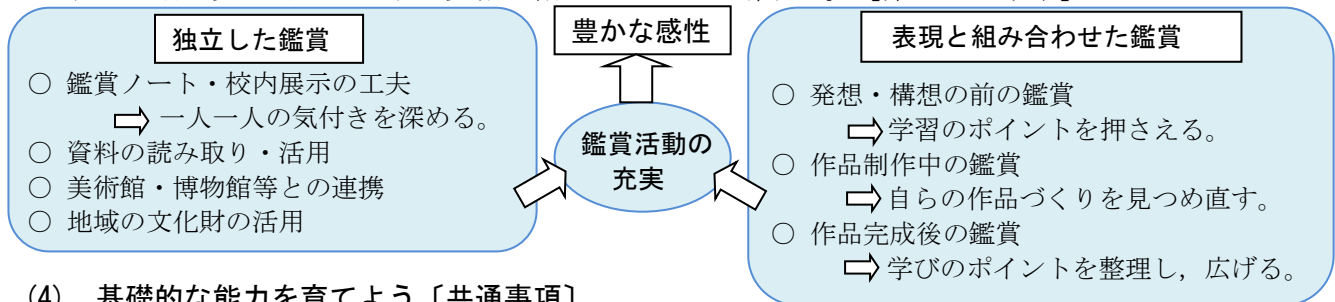
(3) 鑑賞の活動を充実させよう

鑑賞に充てる授業時数を適切に確保し、表現と鑑賞の相互の関連を図り、学習の効果が高まるようにする。

ア 作品に対する感じ方や思いを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりして、美意識を高める。【全学年】

イ 身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産等を鑑賞し、そのよさや美しさ等を味わい、美術文化の継承と創造への関心を高める。【全学年】

ウ 生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解する。【第2・3学年】



(4) 基礎的な能力を育てよう〔共通事項〕

〔共通事項〕は、形や色彩、材料、光等の性質や、それらがもたらす感情を理解したり、形や色彩の特徴等を基に対象のイメージを捉えたりするなどの資質や能力を育成し、表現や鑑賞の能力を高めることをねらいとしている。全ての学習活動において共通に指導する事項である。

2 確かな学力を育むための美術科の学習指導

(1) 個を生かす指導に心がけよう

生徒一人一人の実態を把握し、創造活動の表現の基礎的能力を総合的に身に付けさせる。

創造活動の表現の基礎的能力を整理すると、右に示す五つにまとめられる。一人一人の資質・能力を高めるためには、これらを総合的に身に付けられるようにする。

【美術科で育てる創造活動の表現の基礎的能力】

- ① ものの見方・感じ方を深めること（見る力、感じ取る感性）
- ② 主題や発想を創出すること（発想力、イメージを浮かべる力）
- ③ 考えやイメージをまとめ組み立てること（構想力、構成力）
- ④ 形・色・材料で表す感覚や基礎的技能を身に付けること
- ⑤ 作品を通してコミュニケーションや批評をし合い、互いのよさや個性等を理解し合うこと

(2) 一人一人のよさや可能性を伸ばし、自己実現を支援するための評価をしよう

単元を通して主題の発想から作品の完成までの過程において、4観点別に評価計画を作成し、計画的・継続的に評価する。

主題の発想から作品の完成までの過程で一人一人の構想や表現のよさを多様な方法で評価し、励ますことによって主体的な表現への意欲を高め、生涯を通じた自己実現への態度を育てる。

移行期間中における学習指導について

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について
 - ・ 造形的な視点をもとに、生徒自らが強く表現したいことを具体的に思い描くことができるように、題材との出会わせ方の工夫、材料・用具の確認、学習の見通しと振り返りの場等を設定することで、表現意欲を高め、主体的な学びを促すこと。
 - ・ 生徒同士のコミュニケーションや美術文化等との関わりを通して、造形的なよさや美しさ、表現の意図や工夫等について考える場面を設定し、対話的な学びを促すこと。
 - ・ 自分の思いを基に、表現の意図に応じたさまざまな技能を応用したり、試行錯誤を繰り返して自分の表現方法を見つけ出したりする場を設定し、美術に対する見方や感じ方・考え方を深める学びを促すこと。
- 移行措置の内容について
 - ・ なし
- その他の留意点について
 - ・ 美術では何を学び、何ができるようになるかを明らかにし、形や色彩、材料や光等、造形の要素に着目したり、その特徴からイメージを捉えたりする視点を豊かにもち、生徒が自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え、生活や社会と豊かに関わる資質・能力を育成する。
 - ・ 第1学年では、感じ取ったことや考えたこと等を基にした発想や構想、発想や構想をしたこと等を基に表す技能、美術の働きや美術文化に関する鑑賞等、内容の各事項の定着を図ることを基本とする。
 - ・ 第2・3学年では、第1学年で身に付けた資質・能力を柔軟に活用し、表現及び鑑賞に関する資質・能力をより豊かに高めることを基本とする。
 - ・ 自分の思いや考えがあっても、それを具現化するために必要な技能が伴わず、充実感や成就感を味わえないことのないように、小学校図画工作科での学習経験や連続性に配慮する。